

リオン株式会社

2018年3月期決算ダイジェスト

東証一部 証券コード〈 6823 〉

免責事項 | 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

売上高・各利益ともに過去最高を更新

- 4製品群全てにおいて増収となる
- 補聴器における販売促進費用等の増加により、医療機器事業部は減益に
- 環境機器事業は引き続き販売が好調で、大幅な増収増益を達成

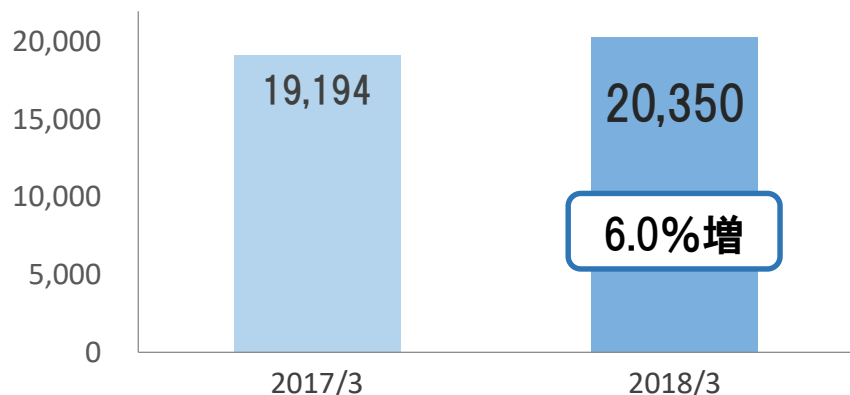
今後3年間は緩やかな増収増益を見込む

- 各種施策の実施により、両事業の売上高は継続的な増加を見込む
- 販売費や研究開発費等の積極投資により、利益水準は当期と同程度で推移する見通し

決算ハイライト(連結)

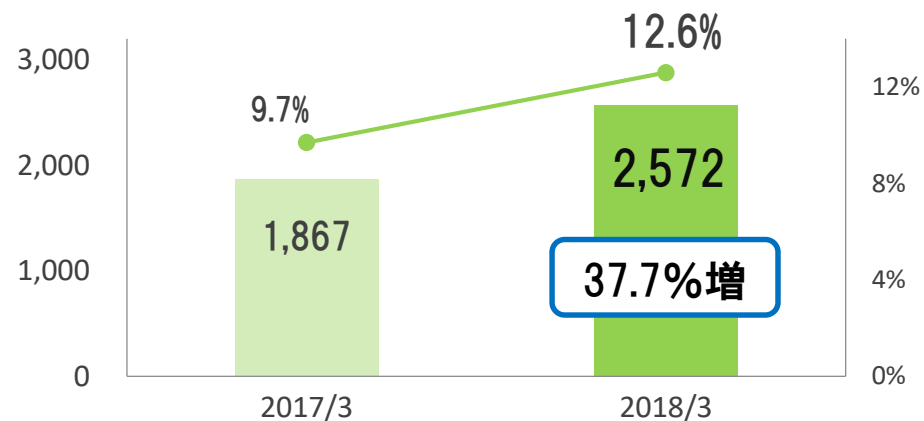
売上高

(百万円)



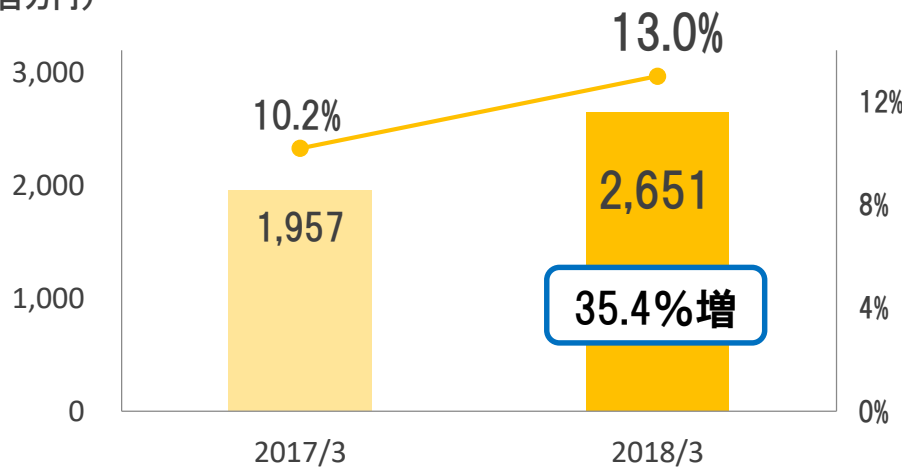
営業利益(率)

(百万円)



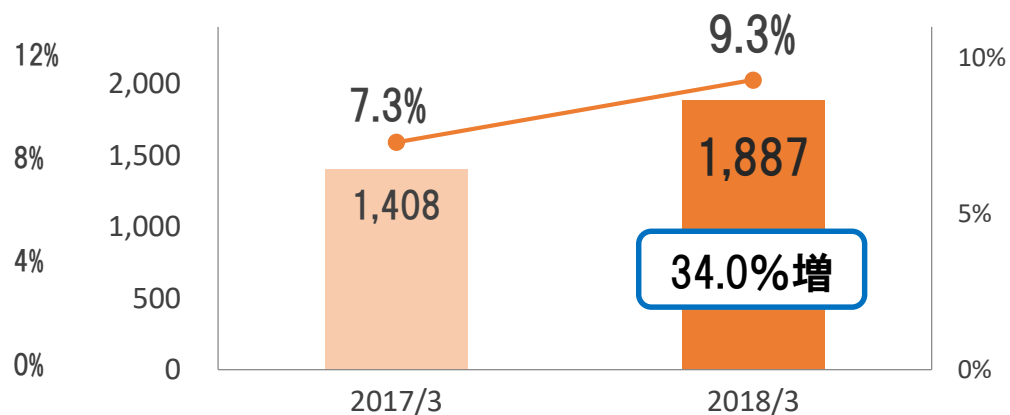
経常利益(率)

(百万円)



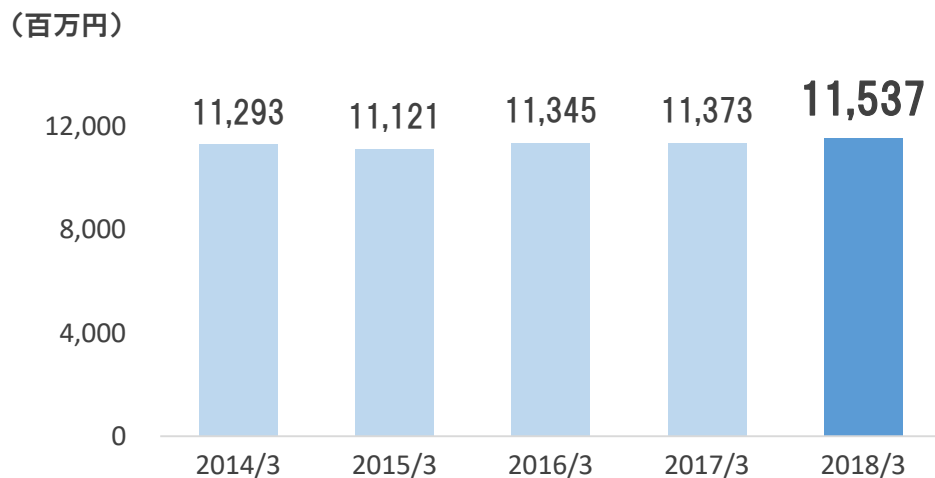
親会社株主に帰属する 当期純利益(率)

(百万円)

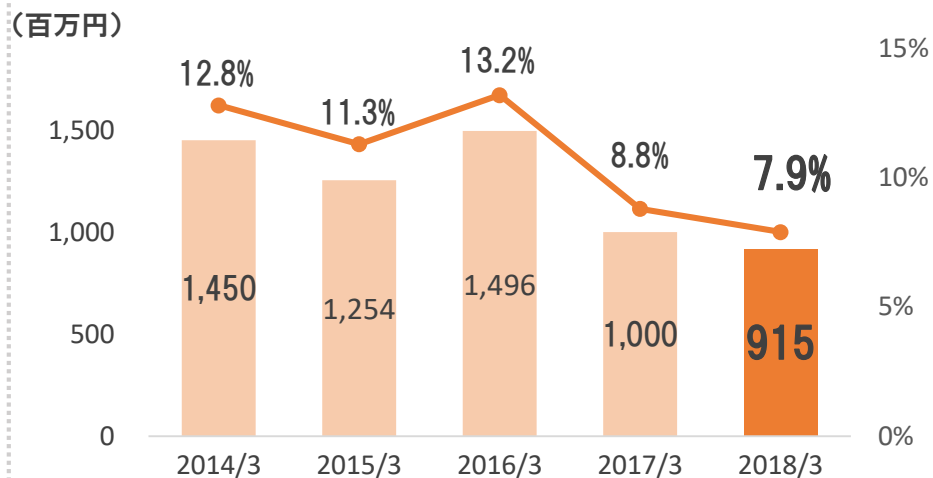


前期比で増収も、販売費の増加により減益に

売上高



営業利益(率)

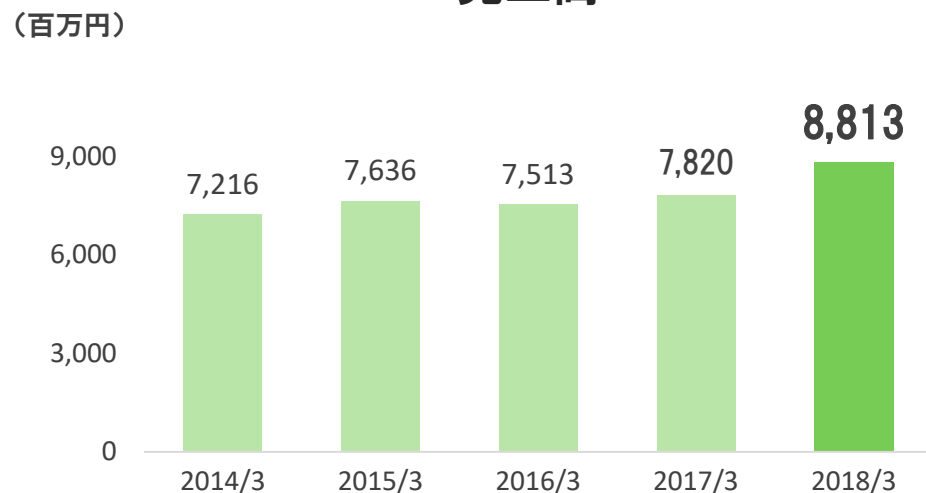


- ・ 補聴器は、昨年8月に発売した高価格帯製品が第2四半期までの落ち込みをカバーし、売上高は前期を上回る。
- ・ 医用検査機器は大型の聴力検査室が好調な販売となったことなどから増収に。

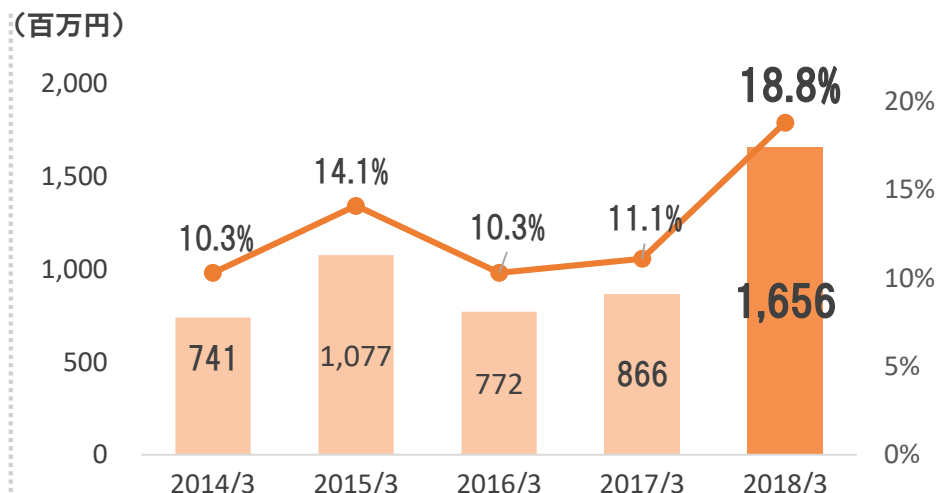
セグメント別の業績推移 | 環境機器事業

大幅な増収増益を達成

売上高



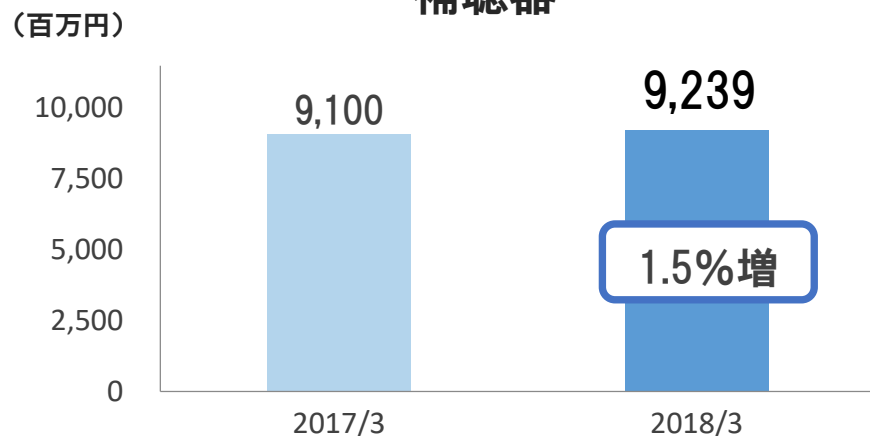
営業利益(率)



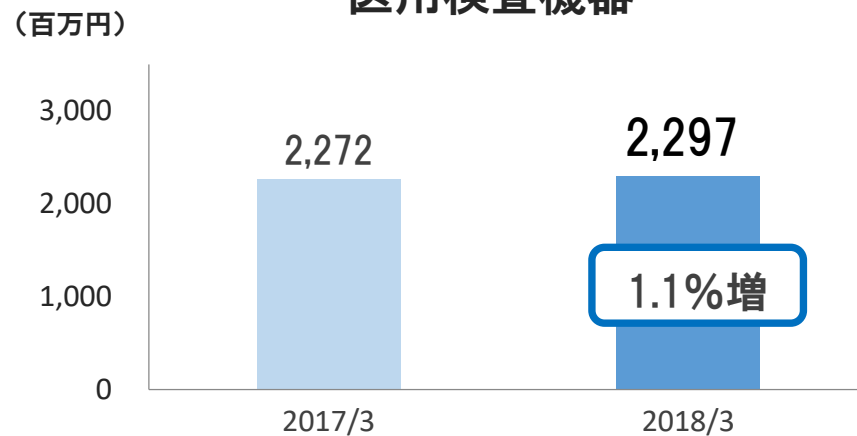
- 音響・振動計測器は、建設工事が活況であったことから騒音計や振動計の販売が増加。新製品の航空機騒音観測システムや自動車産業等における各種計測器の販売も好調なため増収となる。
- 微粒子計測器は気中微粒子計の販売が堅調に推移したことに加え、半導体市場での液中微粒子計の販売が特に好調なため、売上高は前期を大幅に上回る。

製品群別の売上高の推移

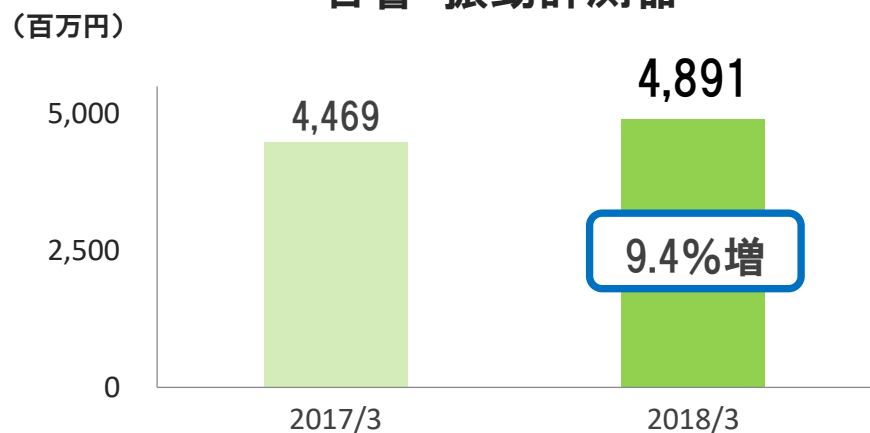
補聴器



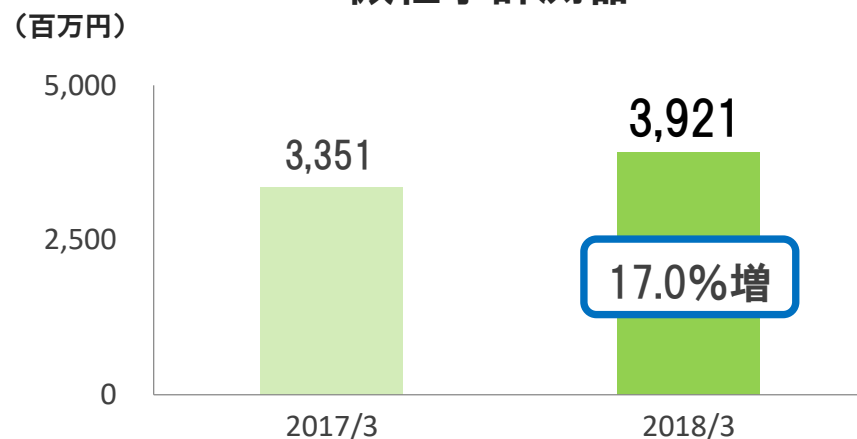
医用検査機器



音響・振動計測器



微粒子計測器



1月30日 [配当予想の修正\(増配\)に関するお知らせ](#)

1月30日 [株主優待制度の拡充に関するお知らせ](#)

2月 1日 [国分寺駅北口ビル多目的ホールのネーミングライツ\(命名権\)を取得](#)

2月15日 [連結子会社間の合併及び商号変更に関するお知らせ](#)

2月15日 [人事異動に関するお知らせ](#)

2月19日 [技術情報誌「Shake Hands」Vol.6発刊のお知らせ](#)

※ 下線はURLリンクが付いています。

2月20日 [光遮蔽型自動微粒子測定装置 液中パーティクルカウンタ「KL-05」を発売](#)

3月19日 [聴覚検査結果支援システム「メディレポ\(Medirepo\)」を発売](#)

3月22日 株主様向け 第4回「はじめての補聴器講座」を開催

3月28日 [国際協力機構\(JICA\)の民間技術普及促進事業に採択](#)

3月30日 [「スーパーカミオカンデ」にて生物粒子計数器の実証実験がスタート](#)

※ 下線はURLリンクが付いています。